



6月の青空の下、庭に

あじさいの花が咲いています



愛知県豊川市とは？

稲垣かをるさんは色白で線の細い人で上品な人です。「会社が閉めることになり申し訳ないね」「いえ、仕方ないと思っています」「暫くは残務整理で協力をお願いしますね」「はいわかりました」私達は大阪十三の喫茶店であつて話をすることになりました。丁度新緑の季節の五月のある日、街並みでは緑の綺麗な日でした。表では太陽が燦々と光を注いでいて気持ちの良い午前です。「ところであなたの故郷の豊川について聞かせてくれますか、そこで仕事の話があるのでは私が行ったことがないので、よろしくお願いします」「はい、愛知県は一番大きな都市は名古屋です。その次に人口の

多いのが豊川市の隣の豊橋市で33万人の人口です。豊川は人口10万ですが、隣の蒲郡市も担当エリアですか、そこは人口8万人です。豊川市は日本三大稲荷の一つで、豊川稲荷さんがあります。地方の小都市ですが、鰻が美味しいところですよ。「なるほど、私はいなぎが苦手なのでこまったなあ」「毎日うなぎばかり食べているわけではないので、気になさなくていいですよ」「それはそうだねアハハ」私はそんな話を彼女から聴きながら、この娘はなかなか素敵だな娘だなどと思い始めていました。洋子の田舎の素朴さと、順子さんの素敵な笑顔を持ち合わせている娘でした。

それから私達は度々会うことになり、その度に細かいことを聞いて豊川に行くべきか、いかざるべきかを考えていました。私は彼女と度々会うことに好ましい人だなあと思うようになっていました。彼女は短大を出て幼稚園の先生を経て大阪に、まだ22歳を迎えていました。順子さんに振られてから女性の結果的にあそびだけの人が何人かは通り過ぎて行きましたが、結婚に結びつく人はいませんでした。お袋もいて何不自由なく生活できていたのがそうさせたのかもしれない。私が稲垣かをるさんは結婚が似合う人でした。私はだんだん彼女をそうした意味で意識するようになっていました。しかし彼女は大会の大阪に憧れて田舎から出てきて、2年足らずで又故郷の豊川に私と結婚して帰るとは想像できないことでしょうか、私は自分の思いと仕事と

の間でだんだん悩まされてくる自分を感じていました。私達はその頃頻りに会っていました。彼女は私の誘いを断ったことはありませんでした。昼間から又夜の居酒屋でデートしました。彼女に「君は彼氏は居ないの？」「はい私などの田舎者を相手にする男性はいません」「そんなことはないと思うよ、君ほど綺麗な人なら男性はほつとかないと思うが」私はお酒の手も借りてズケズケ聞いていました。「結婚は考えてことはないの？」と聞いてみました。「いい人がいれば考えますが」と消え入るような声で答えてくれました。彼女は私のとをどのように考えてくれているのか一度聞いてみたくなりましたが聞く勇氣ときっかけが見つからずいつも消化不良のまま、また会いましょうと別

れていました。私は段々彼女に惹かれていく自分がいるのを感じ始めていました。しかし私には歳が離れすぎていたのでそうしてことが行動にブレーキをかけていました。15歳も違うのです。ある日私は彼女を家に招待しました。その頃は淀川区の団地にお袋と二人暮らし、そこに彼女をお袋の自慢の料理を食べてもらいたく誘いました。気持ち良く私の招待に答えてくれて、ある日夕方彼女がやってきました。お袋は張り切って色々自慢の料理を作って彼女をもてなしてくれました。後日彼女が「とても美味しかったです。あんな料理をいつも籠谷社長さんは食べているのですね、幸せですね」「今度君の料理を食べたいなあ」と図々しくも言ってしまったから困らせたなあと反省しました。

そんなこんなで私達はだんだん近づいてきたように感じていました。思い切って私のことをどう思っているのか聞いてみようかと思うようになっていました。しかし彼女は22歳、私は37歳のコブ付き結婚ということになればそんなハンデイが重くのしかかってきます。私が結婚すればお袋は兄きの所に行くと言っていました。いざそうやってみなければどうなるかわかりません。お袋を捨てるわけには行きませんし。そんな時リコーにいた時の部下で今は小学校の先生をしている太田久美子という女性から電話があり会いたいとの事、半年ぶりですが会うことにしました。

彼女とは実は一晩一緒にした仲でしたので無碍に断れず会いました。夜指定されたスナックに行きました。彼女は今小学三年生の担当で楽しくやっていると。しかしリコー時代のことが忘れられず、杯を交わすうちに酔いが回ってきたのか、「籠谷課長、また私と付き合ってくださいませんか、課長のことが忘れ

られないのです」と昔のままの呼び方で私を呼び、せつせつと自分の思いを私にぶつけて来ました。彼女は昔から積極的な性格で始めはそうした彼女を頼もしくも思った時もありましたが、一晩過ごしたホテルも彼女が誘い私がついていったという過去もあり、彼女のその時の積極性を思い浮かべると稲垣さんとあまりにも違い過ぎて、その積極的な性格が今の私には重荷になっていました。

「君は今学校の先生と聖職についているのだから、それを大事にして暫くはそうしたことに専念した方がいいよ、私は今仕事を失敗して女性のことを考えている余裕がないのだよ」「いや！私のことを少しは覚えてくれていいのなら私と結婚してください。生活は私がなんとかします。課長が新しい仕事が見つかるまで私の給料と貯金でなんとかでもなりますから」この積極性が稲垣さんを知った今の私には重荷ですが、彼女はそんな事とはつゆ知らずグイグイ押しして来ます。

押されれば押されるほど冷めていく私がいきました。

この対照的な二人の間で私は困惑しているわけですがその後どうなることや次回まで・・・

籠谷 弘



歌声喫茶 6月・7月の予定

「西院」(第2、4木曜日)

6月13日、27日

7月11日、25日

楽々亭第43回 6月の予定

6月15日(土)

西京区役所洛西支所第三会議室

午後1時30分～3時30分

ともしび通信

発行元：NPO 法人没イチの会・京都

住所：京都市西京区大枝北沓掛町一丁目5番地2-406

TEL：075-874-5320 FAX：075-874-5328

MAIL：kago@botuichi.com

●ともしび通信では、皆様の投稿を募集しております。身の回りの出来事や体験談など、何でも結構です。楽しかったこと、つらい想いをしたことなど、様々な胸の内を皆様と共有して行きたいと考えております。